

冬青の実

染谷 秀雄

十一月の初旬のことである。JR大久保駅から俳人協会に通う道すがら代替わりして新しく建て替えた家の玄関脇にニメートルを超える木が植えられ赤い実が付いていた。皺のある固く波打つ葉の付け根から程よく一粒ずつ実が付いていて見るからに奥床しく、みどりの葉との色合いが何とも言えず美しい。添え木の竹竿にしつかり結んだ棕櫚縄の美しさに日が経っていないことが分かる。その添え本へ結んだプラスチックの札には冬青（そよご）とある。モチノ木科の常緑広葉樹で「手入れ・病害虫・名前の由来・手入れカレンダー」が著してあり、おまけにQRコードまで付いているので誰にでも分かりやすくなっている。さすがにPRも忘れない建設会社が下げた名札である。来年の六月頃、この場所で注意して花を見てみたいものである。

この実に皺が見え、紅から深紅に移り変りいよいよ落果が近くなってきたことを窺わせていた。よく見ると一粒だけになってしまっていたので、その実をもらってきた。これを種まきするには果肉を取り出して水で洗って種を乾かさないように湿らせた砂に混ぜ、密封して冷蔵庫で四月頃まで保管してから植えるようである。うまく発芽したとして開花まで七年以上かかるという。それに雌雄異株でないと実を見ることは出来ない。我が家には臍の木があるので何とか実生から育ててみたいと思っている。